

## 物・金がなくてもできる声援—春の選抜高校野球

### 青森県八戸港では、震災後初の出漁・水揚げ

「人は西へ、物は東へ」の流れで慌ただしいことですが……

福島原発は、まだ多くの人の不安の種になっていますが、大阪までには届かないようです。

それでも、影響はあるようで、身近なところでは

例えば、先週、見知らぬ外国人が、プリントアウト、

オツケー」と飛び込んできました。1日目は男性、

2日目は女性。得体の知れぬメモリーステックをつ

ないで、コンピューターウイルスに感染するのも怖

いけど、関東から避難してきた人と考えると、断

のも……本当は断るだけの英語力がなかっただけ

のことですが……

マア、東北関東大震災の直接の影響といえは、こ

れくらい。平穏な日常に感謝しながら、いよいよ選抜

高校野球開幕、せいぜい若い人の運動量に元気をも

らい、陰気な空気を一時でも吹き飛ばして、ストレ

ス発散をしたいものだと思っています。

被災地では、「本当は漁に出たくないのだけど」と

思いながらも、日本3位の水揚げ量を誇る八戸港の

社会的役割を全うするために、漁に出かけた人々

がいます。社会が回っていく力は、こんな踏ん張り

の積み重ねとつくづく思いました。

選抜大会、甲子園で開会式リハーサルⅡ行進など簡素化、あす開幕—時事通信 3月22日(火) 11時27分配信

23日に開幕する第83回選抜高校野球大会の開会式リ

ハーサルが22日、兵庫県西宮市の甲子園球場で行わ

れた。

東日本大震災の被災者の心情に配慮し、開会式は例

年よりも簡素化される。選手の入場行進はなく、最初か

ら外野に整列。リハーサル前には、その場で全員が震災

の犠牲者に黙とうをささげた。

グラウンドを1周しない代わりに、1校ずつがダイ

ヤモンド内に前進する方式。行進曲は人気歌手グループ

いきものがかりの「ありがとう」だが、ブラスバンドの

生演奏ではなく、演奏録音の場内放送で流された。創志

学園(岡山)の野山慎介主将が選手宣誓の練習をした。

大会第1日の23日は開会式に続いて、香川西(香川)

—日本文理(新潟)、前橋育英(群馬)—九州国際大付

(福岡)、創志学園(岡山)—北海(北海道)の「回戦」試

合が予定されている。

(注)東北高校は、第6日の第1試合で大垣日大(岐

阜)と対戦)

## 一部で雨の放射性物質増加 水道水は10都県で(3/21 22:57) 静岡新聞ニュース・ネット版

文部科学省は21日、20日朝から24時間の雨やちり、ほこりなど降下物の検査結果について、雨の影響で、放射性のヨウ素やセシウムの量が大幅に増えた地域があったと発表した。／

また文科省は21日、都道府県が20日採取した水道水の検査結果を集計し、ヨウ素とセシウムが茨城、栃木、群馬で、ヨウ素が埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨で検出されたと発表。独自調査している福島県も21日午前8時の採水で、ヨウ素が水1キロ当たり23ベクレル検出されたと発表した。いずれも国の基準値を下回った。／

水1キロ当たりの量はヨウ素が茨城12ベクレル、栃木10ベクレル、東京2・9ベクレル、新潟3・6ベクレルなど。セシウムは栃木2・8ベクレル、群馬1・2ベクレルなど。宮城県は震災の被害で計測不能。

国の原子力安全委員会の摂取制限基準は水1キロ当たりヨウ素が300ベクレル、セシウムが200ベクレル。

### ヨウ素-131(131I) 半減期 8.04日 (以下は原子力資料情報室のホームページから紹介)

ヨウ素のもっともよく知られている放射性同位体。天然では、大気中で宇宙線とキセノンの反応によって生成し、地上でウラン-238(238U)の自発核分裂によって生じる。いずれにしてもその量は小さい。人工的には、核分裂で大量に生成。

#### 生体に対する影響

ガンマ線は放出されるが、ベータ線による甲状腺被曝が大きな問題となる。10,000ベクレルを経口摂取した時の実効線量は0.22ミリシーベルトになる。ガンマ線による被曝は甲状腺以外におよぶが、その線量は小さい。

外部被曝=1mの距離に100万ベクレルの小さな線源があると、ガンマ線によって1日に0.0014ミリシーベルトの被曝を受ける。

人がヨウ素を吸収する主な経路は、牧草→牛→牛乳→人の食物連鎖である。牛乳中の放射性ヨウ素濃度は牧草地上に沈積した3日後にピークに達する。牧草から除去される有効半減期は約5日である。牧草地1平方メートルにヨウ素-131が1,000ベクレル沈積すれば、牛乳1リットルに900ベクレルが含まれると推定されている。チェルノブイリ事故では、放出量が大きかったために、飲料水、空気などを通る経路も考える必要があった。

### セシウム-134 (134Cs) 半減期 2.06年

核分裂では生成せず、核兵器の爆発によっては生じないと考えてよい。原子炉の運転では、核分裂生成物であるキセノン-133(133Xe、5.3日)のベータ崩壊で生じるセシウム-133が中性子を捕獲して生成する。セシウム-134が環境中に存在すれば、原子炉から放出されたか使用済み核燃料から出てきたものである。

#### 生体に対する影響

体内に摂取した時のベータ線による内部被曝が問題になり、10,000ベクレルを経口摂取した時の実効線量は0.19ミリシーベルトになる。また、1mの距離に100万ベクレルの小さな線源があると、ガンマ線によって1日に0.0055ミリシーベルトの外部被曝を受ける。

ふつうは、土壌から野菜や穀物を経て人が摂取する経路が重要であり、大気中から葉菜への沈着も問題になる。土壌の中での挙動は土質によって異なる。粘土質の土壌ではよく吸着され、植物には取り込まれにくい。淡水には溶けにくく、湖底堆積物に含まれることが多い。海水には溶けて、魚などに摂取されやすい。

(注：牛乳やホウレン草、飲料水の「汚染問題」、「なんで騒いでるの」に対する参考資料です。)